

津田智（火生態学者 / 軽井沢サクラソウ会議）

鳥類の豆知識

Intro.

軽井沢は野鳥の宝庫として古くから知られ、身近にたくさんの野鳥を見ることができます。言うまでも無く鳥類という分類群に属する脊椎動物ですが、恐竜の末裔としても知られています。色や形が目を引きましますし、飛び去ってしまう観察の難しさもあって、野鳥観察を趣味にしている人はたくさんいます。世界中に 10000 種ほどいると言われる鳥類のうち日本には約 700 種が知られていますが、実際には見られないものも含まれています。絶滅危惧種を集めた環境省のレッドデータブックには 700 種のうちの約 2 割にあたる 150 種ほどが掲載されていますが、そのうち 15 種は二度と見るできない絶滅種です。



イヌワシ



クマタカ

和田のどか（クマタカ生態研究グループ / 中日本航空株式会社）

空の王者イヌワシと森の皇帝クマタカの暮らし

Part

1

イヌワシとクマタカは、日本、特に本州においては最も大きい猛禽類（肉食の鳥）です。

イヌワシは北半球に分布しており、日本は南限に近い一方、クマタカはユーラシア大陸の南東部に分布し、日本は北限にあたります。どちらの種も、日本においては山間部を利用していますが、イヌワシは草原性、クマタカは森林性の鳥とされています。生息数は少ないものの生態系ピラミットの頂点に位置する動物のため、生物多様性の指標とされる“キーストーン種”に位置します。

今回は演者の所属する調査団体が主に観察をしている、鈴鹿山脈のイヌワシとクマタカの事例を中心に、その暮らしと最新の研究概要をご紹介します。また特に近年、日本のイヌワシが絶滅の危機に瀕しています。イヌワシはどうして絶滅の恐れがあるのか？、また各地で始まっている保全活動の事例についてもご紹介する予定です。



シロハラとクロガネモチ



メジロとハマヒサカキ



ヒヨドリとクロガネモチ

三原菜美（米子水鳥公園）

たがいにうまく利用しあう関係の鳥と植物

Part

2

植物は一度根を下ろすとその場所から動くことができないため、離れた場所に花粉を届けたり、遠くに種子を散布するために、動物を利用します。動物の中でも、すばやく長距離を飛んで移動できる鳥は、とくに重要な役割を果たしています。

「植物が鳥を利用する」といっても、多くの場合、両者は WIN-WIN の関係です。というのも、植物は花粉や種子を運んでもらうために報酬として蜜や果実を提供し、それらは鳥にとって重要な餌資源となるためです。しかも、その植物の花や果実はよく見ると、訪問者の鳥に合わせたさまざまな特徴を持っています。

今回の講座では、鳥が花粉や種子を運ぶ植物について、花や果実の色や形などの“見える”特徴から、蜜や果実の成分など“見えない”特徴まで、さまざまな面での工夫をご紹介します。